

# 外国語活動・外国語研究部

## I 研究主題

思考力・判断力・表現力の向上を目指した支援の手立てとその検証

## II 主題設定の理由

学習指導要領が改訂され、小学校は3年目、中学校は2年目を迎えた。小学校外国語活動においては「英語ノート」から「Hi, friends」に変更になったが、所沢市独自の「英語学びノート DVD」や支援員を活用し、授業の工夫改善を進め、担任が授業をする環境整備が進んでいる。中学校外国語では昨年度から教科書が変わり、4技能をバランスよく指導する授業の創造を進めている。

本研究においては、埼玉県平成25年度「指導の重点・努力点」及び、本市「学び改善プロジェクト」、昨年度の研究の課題から以下のような点に着目し、研究を行うこととした。

まず、小学校外国語活動においては2点挙げられる。第一に、思考力・判断力・表現力の向上を目指した支援の手立てを考え、児童の活動意欲を高める指導と評価の充実を図ることである。昨年度の『研究のまとめと今後の課題』では、「各単元の評価が積み重なるような振り返りシートが評価物として残ることが望ましい」と挙げられていた。小学校外国語活動では、数値による評価が行われていない。評価を行う上で、児童自身の振り返りシートの変容は、児童の活動意欲の変容を見とる非常に重要な要素の一つである。また、振り返りシートは教師の観察を補うものであり、設定した支援策が有効に機能したか否かを検証する上で参考になると考えた。第二に、実践研究を通じて「本時の目標」「授業の流れ」の提示を工夫することが支援の手立てとなり、児童が見通しを持って学習に取り組み、児童の活動意欲の向上に結びつくと考えた。学び改善プロジェクトが3年目を迎えるが、小学校外国語活動では、毎時他教科のように「授業の流れ」が提示されていない傾向にあるからである。

次に、中学校外国語科においても2点挙げられる。一つ目は外国語活動での学習成果を踏まえ、円滑な接続を図ることである。そのために、小学校5、6年生の時に2年間外国語活動の授業を受けた生徒の実態を調査し、中学校外国語の授業に活かせるものを検討することが、生徒の意欲向上につながると考えた。そこで、本市独自の英語学びノート DVD を中学校の授業で活用し、その視覚的な支援の効果を検証することとした。二つ目は、昨年度の『研究のまとめと今後の課題』で「定着を図っていくことが今後の支援策となる」とあった。そこで、毎時間の授業での積み重ねが定着につながると考え、実践授業において、「本時の目標」の提示方法の工夫や授業で使用するワークシートの工夫、判定基準の明確化が生徒の成果物にどう影響するかを検証することとした。

授業の中で以上のような支援の手立てを行い、その効果を検証することが児童生徒の思考力・判断力・表現力の向上につながると考え、本研究主題を設定した。

## III 研究の内容

本研究においては、小学校外国語活動と中学校外国語に分かれて、それぞれの支援の手立てとその効果についての検証に迫った。なお、実践授業において共通して取り組むこととして、

- ①授業の始まりで本時の目標を明確に提示する。
- ②授業の終わりで本時の目標の達成度を振り返る。
- ③学びノート DVD などの視覚的な支援を取り入れる。

## 1 小学校外国語活動

～思考力・判断力・表現力の向上を目指した本時の目標と授業の流れの提示と発問の工夫～

### (1) 各校の「学び改善プロジェクト実施について」実態調査

①アンケート調査・・・平成25年11月外国語活動支援員16名に実施

#### ②アンケート内容

- ・学び改善プロジェクトではめあてを明示することになっておりますが、外国語活動で毎時間「本時の目標」を提示していますか？

#### ②調査結果

- ・毎時間「本時の目標」を提示している 5校
- ・「本時の目標」をあまり提示していない 19校
- ・無回答 8校

#### ③分析

以上の結果から、小学校外国語活動では、学び改善プロジェクトにある「本時の目標」の提示は行われていない学校が多いことが判明した。仮に無回答の8校が「本時の目標」を提示していると回答していたとしても、市内小学校の半数以上が「本時の目標」を提示していないのが現状である。

### (2) 仮説

「本時の目標」と「授業の流れ」を提示することで、児童が「本時の目標」を意識し、見通しを持って授業に臨むことができるであろう。また、それが「本時の目標」の達成につながり、さらにその積み重ねが単元の目標の達成にもつながるのではないかと。

### (3) 検証

#### ①方法

「本時の目標」の提示に関して、パターンを変えた2つの授業を行い、授業【1回目】と授業【2回目】の児童の振り返りシートを比較し、感想や児童の気付きに関する自由記述にどのような変化が見られたかを検証することとした。

#### ②検証授業

【1回目】平成25年11月1日（金）

第5学年 Hi, friends! Lesson 7 What's this? It's～. 第1時

本時の目標 英語でたずねたり答えたりしよう

提示方法：目標の提示のみで、教師からの働きかけは特に行わない。

【2回目】平成25年11月25日（月）

第5学年 Hi, friends! Lesson 7 What's this? It's～. 第3時

本時の目標 身の回りにあるものを英語で言おう

提示方法：目標の提示+それを意識させるための教師から児童への働きかけを行う。

平成25年11月1日（金）の指導案 検証授業【1回目】

過程（分）	児童の活動	指導者の活動	指導上の留意点	教材
あいさつ（7） 導入	1. 挨拶をする。 Hello. How are you today?  2. DVDを視聴する。 3. 本時のめあてを知る。 4. マイムタイム	学級担任 支援員 Hello, everyone. Let's start today's lesson!  本時のめあて 英語でたずねたり、答えたりしよう。	笑顔で挨拶する。	DVD
展開1（10）	5. シルエットクイズ	展開2のヒントとなるように物の形の一部を見せて、児童に推測させる。	興味関心を喚起する。	
展開2（20）	6. 折り紙でシルエットクイズ	決めた物の英語の言い方がわからない児童に支援する。 決めた物の形を折り紙に切り取る。切り取った折り紙が何の影なのか、言い当てる。 A. What's this? B. It's ~. A. No, it's ~. C. What's this? What's this? It's ~.をキーフレーズとする。	楽しい雰囲気をつくる支援をする。	折り紙
まとめ 挨拶をする。 （8）	7. 振り返りカードを書く。 8. 挨拶をする。	めあてを振り返る。	振り返りで、コミュニケーションの楽しさを味わえたか把握し、次時の活動に生かす。	振り返りカード

平成25年11月25日（月）の指導案 検証授業【2回目】

過程（分）	児童の活動	指導者の活動	指導上の留意点	教材
あいさつ 導入 （7）	1. 挨拶をする。 Hello. How are you today?  2. DVDを視聴する。 3. 本時のめあてを知る。 4. マイムタイム	学級担任 支援員 Hello, everyone. Let's start today's lesson!  本時のめあて 身近な物を英語で言おう。	笑顔で挨拶する。 マイムタイムから本時の学習内容を推測させ、前時の学習とつなげる。	DVD
Warm up （10）	5. ピクチャーカードで身近な物の英語の言い方を知る。	展開1のヒントとなるように物の形の一部分を見せて、児童に推測させながら、支援員から身近な物の英語の言い方を習う。	興味関心を喚起する。 身近な物を英語で言ってみることを支援する。	
展開1 （20）	6. ポインティングゲーム	英語の言い方がわからない児童に支援する。 A. What's this? B. It's ~. A. No, it's ~. What's this? It's ~.をキーフレーズとする。	楽しい雰囲気をつくる支援をする。 机間巡視しながら、身近な物を英語で言ってみることを支援する。	教科書
まとめ あいさつ （8）	7. 振り返りカードを書く。 8. 挨拶をする。	本時のめあてを振り返る。 次時の学習内容を知る。	身近な物を英語で言うことが出来たか、振り返らせ、コミュニケーションの楽しさを味わえたか把握し、次時の活動に生かす。	振り返りカード

### ③ワークシートから見る児童の記述の変容

児童 A 外国語活動を 好意的にとら えている児童	授業【1回目】	
	授業【2回目】	
児童 B 外国語活動に 苦手意識のあ る児童	授業【1回目】	
	授業【2回目】	

上記2名の児童を含め、37人中26人の児童が「めあて達成」「身近な物を英語で言うことができた」等、振り返りシートの記述に変容が見られた。

#### (4) まとめと課題

学び改善プロジェクトにおける「本時の目標の提示」という取り組みには効果はあるが、ただの提示だけで終わる危険性を含んでいる。「本時の目標の提示」に効果を持たせるためには、教師が適宜、児童を目標に立ち返らせる働きかけを行って、初めて有効な手段となる。特に小学校外国語活動では、Activityの楽しさやゲーム性に児童の興味・関心が向いてしまい、肝心の本時や単元の目標が見落とされがちである。よって、学び改善プロジェクトの取り組みを有効なものとするためには、教師の働きかけは必要不可欠であり、目標の提示の仕方も工夫する必要がある。具体的には、働きかけのタイミングや内容が精選されていなければならないのである。このような工夫をするためには、学級担任、外国語活動支援員、AETの連携が必要不可欠である。アンケートで外国語活動支援員から多く聞かれた「学級担任の先生方と打ち合わせをする時間がほしい」という要望に、各校の実態が集約されるのではないだろうか。また、「本時の目標」が児童にとって「達成したい」と思うものとなるよう、その文言の精選も必須である。

今後の課題として、「本時の目標」の文言の精選を含めた、学級担任、外国語活動支援員、AETの三者が、授業について情報交換をしたり、打ち合わせを行う時間の確保をすることが望ましいと考える。

## 2 中学校外国語

### (1) 小中の円滑な接続を目指した実践授業とその検証

#### ①中学生に対する小学校外国語活動の学習についての実態調査

中学2年生を対象に、小学校時の外国語活動にどのような思い出を持っているか調査して中学校の英語の授業に活かせるものがないか考えた。また、「本時の目標」を提示するに当たり、小学校での外国語活動を想起させるものがあれば、生徒の興味や関心を高め、理解を深める手立てとして有効ではないかと考えた。そこで、小学校の外国語活動で親しんだものについて生徒たちにアンケートをとった。

#### ②アンケート調査の実施及び調査結果

### I 小学校の授業のときの思い出 (1 クラス 40 名にアンケート)

(1)小学校の英語の授業で、楽しかった活動や出来事を書いてください。

・TV・ビデオ・クリスマスカード・ゲーム・みんなで遊んだこと・AET との交流授業

(2)中学校の英語の授業で、「あ、これは小学校でやった!」と思った出来事を書いてください。

・ABC (アルファベット) ・月や曜日 ・曜日の歌 ・じゃんけん ・数字

・パンの英語の読み方など単語 ・What ・I am ・can ・1年生の授業の最初のころ

### II 『英語学びノート DVD』を見て (2 クラス 70 名にアンケート)

英語に対して苦手意識を持っている生徒たちのために、小学校の時に見た『英語学びノート DVD』の6年生 Lesson 9 What do you want to be?を Program 6 の不定詞の導入のところで見せ、不定詞について親しみを持てるようにした。目標を言葉だけではなく DVD を見せて提示した。小学校の時に見た『英語学びノート DVD』についてどのような思い出を持っているかについてもアンケートを行った。

(1)英語学びノート DVD について

①英語学びノート DVD を 覚えている 47 名 覚えていない 23 名

②英語学びノート DVD で好きだったコーナーを書いてください

安松ざる お話シアター チャンツ チャンツ マイムタイム

③中学校で、もう一度英語ノートを見た感想

- ・懐かしかった。 ・英文が簡単だった。
- ・小学校の頃は意味が分からなかったけれど、中学だとなんとなく意味を理解しながら見られた。
- ・小学校のときより内容がわかる気がして面白かった。
- ・今思えばかなり中学で使われている。
- ・小学校のときの基礎がしっかりできていないと今の授業は理解できないと思った。
- ・これを使って授業をやりたい。その方が楽しい。
- ・小学校でもハイレベルだなあとと思った。 ・何回見ても復習できるから便利。
- ・中学校にもこういうのが欲しいし、その方が分かりやすい。

(2) DVD を見ながら主な表現が書き取れたかの調査

i) ( ) do you ( ) to ( )? DVD に出てきた英文を書いてみよう。

答えは What, want, be

クラス	書けた	書けない
(ア)	18名 51%	17名 49%
(イ)	18名 56%	14名 44%

ii) 書き取った英文を小学校でやったことを覚えているか。

クラス	覚えている	覚えていない	無回答
(ア)	6名 16%	25名 66%	4名 18%
(イ)	<b>14名 44%</b>	<b>18名 56%</b>	<b>0名 0%</b>

### ③アンケートの分析

小学校のときの活動は、「楽しくゲームなどを行った」と答えた生徒が多かった。そして歌や会話を通して月や曜日を知っている生徒たちが多く、英語の発音や歌などに慣れ親しんでいる様子が見えてくる。その一方、「TV、ビデオ、DVD など映像を使った活動が楽しかった」と答えた生徒も多かった。話すことや自己表現が苦手であっても、映像を見て英語に親しんでいる生徒たちもいたのではないかと考えた。

また、DVD について、クラス (ア) とクラス (イ) では、(イ) の方が、アンケートの内容や DVD を見ながら「こういうのを見て授業をやりたい」という声があがるなど、DVD に興味関心がある生徒たちが多かった。その興味関心の高さは **What do you want to be?** という表現を覚えている生徒がクラス (ア) の 2 倍以上になっていることから見て取れる。

アンケートの結果から、中学校外国語における新出構文の導入やまとめ等で小学校外国語活動で使用した DVD 等の視聴覚教材を使用することは、小学校外国語活動の学習から中学校外国語への円滑な接続を図ることに非常に有効であると考えられる。

### ④仮説

- i) 小学校で視聴した DVD を導入で使用することで、英語を苦手とする生徒の英語への興味関心を高め、理解を深める支援の手立ての一つとなるのではないか。
- ii) 新出文法のまとめにあたり、ポイントを明確にして説明することで生徒の理解を深める支援の手立てとなるのではないか。

### ⑤検証方法

DVD の視聴後、英作文の指導に関して、ポイントの説明の仕方を変えて授業を行い、その後取り組んだ生徒の成果物から、DVD の視聴の影響や、内容にどのような違いが出るかを検証することとした。

○生徒の成果物の評価規準

- A: 教科書の例とは違う言葉で表現している
- B: 教科書の例と似たような言葉で表現している
- C: はじめや展開の部分が不十分

### ⑥検証 1

DVD の視聴や授業での練習や復習による繰り返しの指導が、英語を苦手とする生徒にどのように影響するのか、全体の評価 A、B、C のうち以下の 3 項目 (i から iii) で生徒の成果物を分析した。

i) I want to 動詞～と単文を書いた

クラス	A 評価	B 評価	C 評価
ア	4名 10%	11名 28%	2名 5%
イ	1名 3%	8名 26%	<b>3名 10%</b>

ii) I want to 動詞 and 動詞～. というように単文だが一文を長く書いた

クラス	A 評価	B 評価	C 評価
ア	6名 15%	3名 8%	0名 0%
イ	1名 3%	3名 10%	0名 0%

iii) I want to 動詞～. And I want to 動詞～. というように二文以上書いた

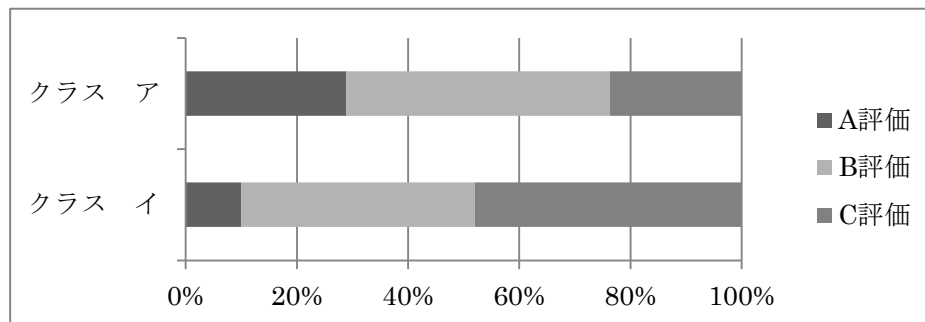
クラス	A 評価	B 評価	C 評価
ア	4名 10%	6名 15%	0名 0%
イ	2名 6%	1名 3%	0名 0%

### ⑦検証2

英作文の指導に関して、ポイントの説明の仕方を以下のように変えて授業を行った。

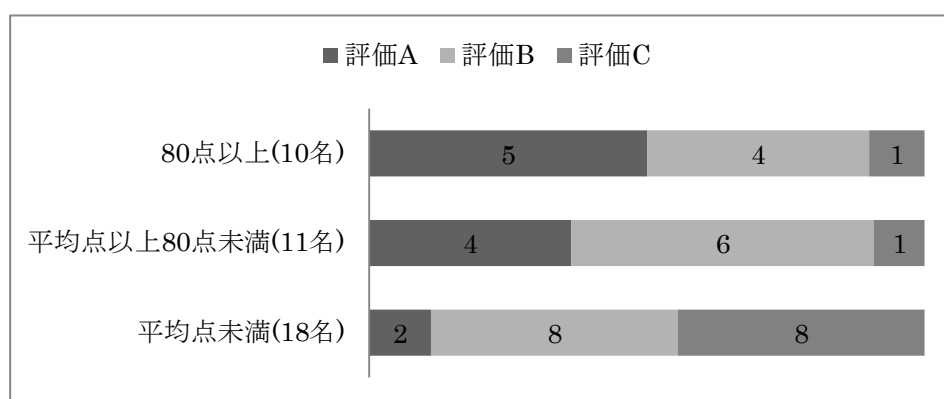
- ・クラス (ア) : 例文の不定詞には赤のチョーク、イディオムなどには黄色のチョークで線を引き説明する。
- ・クラス (イ) : 赤や黄色のチョークで線は引かずに、白いチョークのみを使い、言葉で説明する。

i) 各クラスの成果物評価 A、B、C の割合



\*学力 ア>イ \*DVD 視聴時の意欲関心 ア<イ

ii) クラス (ア) 39名において、チョークを使用したポイントの説明がどのように成果物に影響があったか、クラス全体の評価 A、B、C の中で定期試験 80 点以上、平均点以上 80 点未満、平均点より下回るという 3 グループに分けて分析した。



### ⑧分析結果

ターゲットセンテンスである I want to 動詞～. の文を C 判定の生徒 5 人が書いていた。DVD を見て興味、関心がある生徒が多いクラス (イ) で 3 人だったので、説明時の色分けのチョークの有無より、DVD の視聴や授業での繰り返しが影響していると考えられる。また、クラス (ア) のうち、定期テストの得点が平均点以下の生徒で A 判定や B 判定になった生徒が多い。これは、文の構造を理解するときに赤や黄色で不定詞など、

定着を促したい表現にアンダーラインを引いたため、理解が深められたと考えられる。  
 (2) ワークシートにおける支援の効果とその検証

①仮説

「本時の目標」と生徒用の評価の判定基準を提示することで、生徒が見通しを持って、自分の力を向上させようと意欲的に授業に臨むことができるであろう。さらに、生徒が毎授業で本時の目標を達成しようと努力し、それを積み重ねていくことにより、単語やフレーズ、文法の定着にもつながるのではないか。

②検証

i) 方法

生徒用の評価の判定基準の提示に関して、授業【1回目】と授業【2回目】で異なるワークシートを使用した実践授業を行い、授業の中で生徒が使用する英文にどのような変化がみられるかを検証することとした。

ii) 検証授業：中学校第3学年 2クラスを対象

【1回目】平成25年11月26日(火)・平成25年11月27日(水)

関係代名詞の主格 who の理解と練習：ワークシート A を使用

- ・生徒用の評価の判定基準を提示しない
- ・a 群 (先行詞) と b 群 (修飾節の一部) を提示する

【2回目】平成25年11月28日(木)・平成25年11月29日(金)

関係代名詞の主格 which の理解と練習：ワークシート B を使用

- ・生徒用の評価の判定基準を提示する。
- ・a 群 (先行詞) と b 群 (修飾節の一部) を提示し、言語活動の支援となるようにフレーズの一部に下線を引く。

ワークシート A

Program 7-1 本時の目標 名詞で文を修飾する①  
 一人について詳しく説明できるようにしよう  
 class( ) No.( ) Name( )

Let's communicate with your partner!  
 ★おうちで話し合いに挑戦！相手の英語をよく聞いて正しく答えてね！

A: Do you know a golfer who become popular all over the world?  
 B: Oh, yes! Yes! / ~~Yes!~~ / ~~No, I don't.~~ But I think  
The golfer who become popular all over the world is Mr. Takikawa.  
 A: Oh, yes! That's right!  
 B: No way! The golfer who become popular all over the world is Mr. Takikawa.

★ペアでクイズを出し合いましょう。一例を辞書以上の英文の□には a 群の語を、  
 部には b 群の語を入れてクイズを作りましょう。できる人は 100% 正解です！

a 群	b 群
a teacher	teaches us Japanese.
a student	runs the fastest in this class.
a singer	sang "Born This Way".
a baseball player	is a pitcher in Rakuten.
a TV star	was the heroine of "Amoeba".

評価の判定基準なし  
 言語活動における支援の下線あり

ワークシート B

Program 7-2 本時の目標 名詞で文を修飾する②  
 一人について詳しく説明できるようにしよう  
 class( ) No.( ) Name( )

Let's communicate with your partner!  
 ★おうちで話し合いに挑戦！相手の英語をよく聞いて正しく答えてね！

A: I like books which talk about love. How about you?  
 B: I like / I don't like books which talk about love.

★ペアでクイズを出し合いましょう。一例を辞書以上の英文の□には a 群の語を、  
 部には b 群の語を入れてクイズを作りましょう。できる人は 100% 正解です！

a 群	b 群
novels	have nice guys/ nice ladies.
TV programs	have a lot of fun.
animals	are so cute.
fruit	is not too sweet.
coke	have a lot of fruit.

A の回答  
 C: 英文と同じ英文が文字数だけで正解した。  
 B: 英文を参考に a 群から b 群の語どちらかを選んで英文が正解した。  
 A: 英文を参考に a 群から b 群の語を選んでオリジナルの英文が正解した。

B の回答  
 C: A に比べてもらいながら、おうちで話し合いして答えることができた。  
 B: A に練習してもらい、おうちで話し合いして答えることができた。  
 A: A の後に、おうちで話し合いして答えた。

評価の判定基準あり  
 言語活動における支援の下線あり



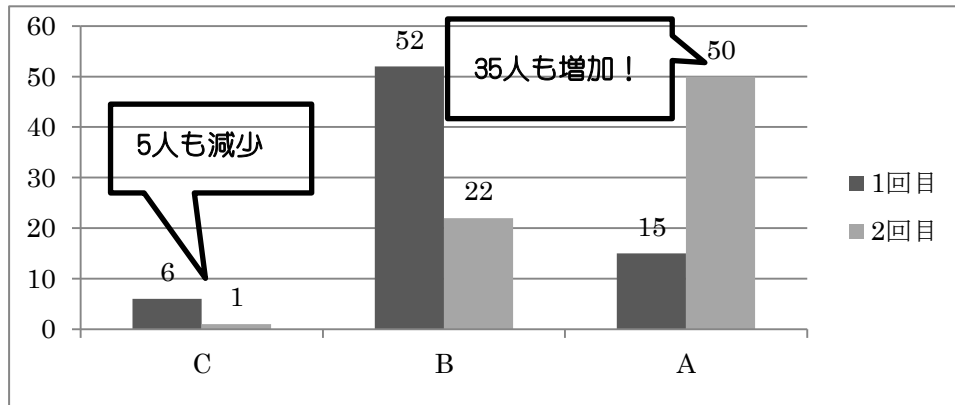
③検証：ワークシートから見る生徒の英作文の変容

【Cの判定基準】例文と同じ英文ができた。

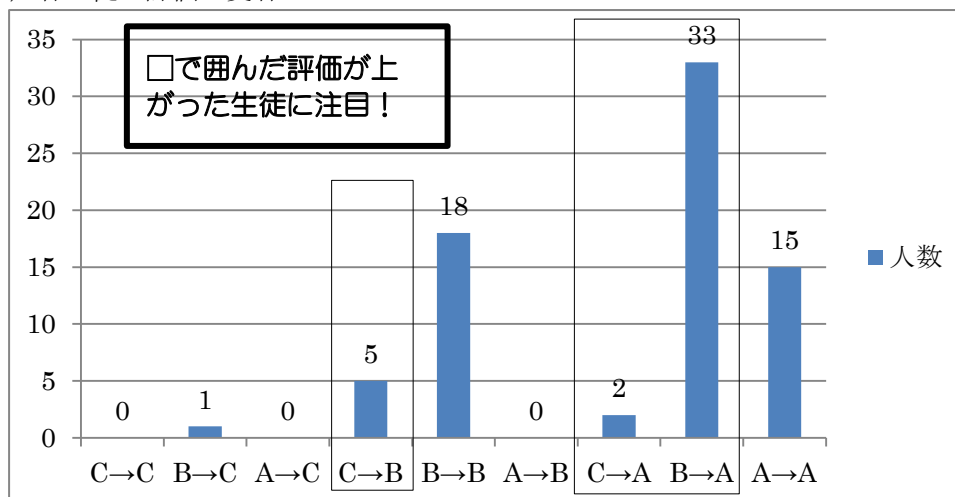
【Bの判定基準】例文を参考にb群の下線部を変えて英文ができた。

【Aの判定基準】例文を参考にa群もb群も語を変えてオリジナルの英文ができた。

i) 評価の変容



ii) 各生徒の評価の変容



iii) 生徒の英作文の変容

C→Bの生徒

The singer who sang "Born This Way" is Lady Gaga. → I like poems which were made by Tanigawa Shuntaro.

B→Aの生徒

The baseball player who is a catcher in Giants. → I like songs which make me happy.

A→Aの生徒

The Japanese soccer player who is a member of the Manchester United. → The cake which is made by my mother is very good.

### ③アンケートの分析

#### i) 生徒向けの評価の判定基準の提示に関すること

口頭での説明だけではなく、ワークシートに評価の判定基準を明記することで、生徒が何を目標に授業に臨めばよいか明確になり、目標達成に向けて、意欲的に授業に取り組んでいた。その結果、評価 C の生徒が 5 名減少し、評価 B の生徒は 30 名減少、評価 A の生徒は 35 名も増加した。本時の目標及び、評価の判定基準を提示することは、生徒の学習意欲及び本時の目標・単元の目標の達成率を向上させるために、非常に有効であると言える。

#### ii) 言語活動の支援となるような下線の使用に関すること

ワークシートに下線を引かなかった【1回目】の授業で、C や B の評価だった生徒 58 名のうち 40 名が【2回目】の授業で B や A の評価となっている。

このことから、英文のどの部分を変えれば他の表現になるかが明確になり、それぞれの生徒が工夫して英作文に取り組めることが明らかとなった。また、生徒の英作文の変容から、A→A の生徒たちの使用文法事項に広がりが見られ、より良い英作文を書こうと思考し、持っている知識の中から語彙や文法事項を適切に判断しながら、表現活動を行っていることが伺えた。

### (3) まとめと課題

#### ①「本時の目標」の提示に関すること

小学校外国語活動及び中学校外国語の授業の中で、共通して「本時の目標」を提示することに取り組んだ。児童生徒に見通しを持って学習に臨ませることは、学習意欲の向上に影響を及ぼすことがはっきりとわかっている。しかし、「本時の目標」の提示の仕方やどのような言葉を使うかは、更に工夫改善が必要と思われる。特に、中学校外国語においては、新規の文法用語を使わずに生徒に目標を明確に示すことが今後の課題である。

#### ②小中の円滑な接続を目指した指導について

中学校の生徒は、小学校外国語活動の 2 年間の学習内容を「点」として覚えているようである。中学校外国語の授業における導入でその「点」をよみがえらせ、練習を繰り返すことで「線」で結び、定着や活用につながっていくと考えられる。そのためには、小学校外国語活動の指導内容や接続する小学校でどのような活動を行っているかを情報交換し、中学校での指導を工夫改善する必要がある。更に教員同士だけでなく、AET や外国語活動支援員との情報交換もしていくことも不可欠である。

#### ③判定基準の提示に関すること

「本時の目標」及び評価の判定基準を提示する授業を毎時間積み重ねることで、基礎基本である語彙や文法が身に付き、定着につながると考えられる。そして、「考えを広げたり増やしたりする思考」「考えを 1 つに絞り込んでいく思考」を深め、英語を聞く、話す、読む、書く活動を通して、問題を解決し、知識や価値を得ることができ、外国語における思考力・判断力・表現力の向上にもつながっていくのではないかと考える。

英語学習の基礎基本なる語彙や文法の「定着」を促すためには、授業の中の繰り返しや毎授業の積み重ねだけでは、不十分である。毎時間行う帯活動や家庭学習、まとめの活動等の位置付けを明確にし、生徒が言語活動を行う時に使用できる表現の幅が広げられるよう、指導・支援を工夫改善していく必要があると考える。